

2023年度の事業報告書

2023年1月1日から2023年12月31日まで

特定非営利活動法人寺子屋プロジェクト

1 事業実施の方針

・以下の事業を実施した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)人数	事業費の 金額 (単位：千 円)
①子どもを中心に幅広い世代が集まる学びの場を運営する寺子屋運営事業	・園児から高校生までの子どもたちと、幅広い世代の大人たちが集まる学びの場の運営や、探究学習、プログラミング学習などの教育サービスを行う。	(A) 220回 (B) 京都市内の寺社、オンライン (C) 30人	(D) 学びの場の参加者 (E) のべ2420人	5446
②子育て・教育活動を行おうとする寺社や地域団体などを支援する寺子屋開設支援事業	・各地の寺社や地域団体などと連携し、より良い子育て・教育の場を実現するための支援活動を行う。	(A) 10回 (B) 京都市内の寺社、滋賀県長浜市の公共施設、オンライン (C) 3人	(D) ワークショップ等への参加者 (E) のべ50人	120
③子育て・教育活動を行おうとする社会人に運営のノウハウを伝える社会人教育事業	・子育て・教育活動を行おうとする人を対象にした連続的な講座を行う。 ・本年度は、実施しなかった。	—	—	—
④学校や教育委員会などと連携して公教育の質の向上を目指す公教育	・各地の教育委員会などと連携し、学校教育や土曜学習等の質を高めるための支援活動を行う。 ・本年度は、実施しなかった。	—	—	—

連携事業				
⑤書籍・電子媒体等を発行してより良い子育て・教育の普及を図る出版事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寺子屋運営事業や寺子屋開設支援事業で得た知見を生かし、書籍等を出版する。</li> <li>・本年度は、実施しなかった。</li> </ul>	—	—	—
⑥その他この法人の目的を達成するために必要な事業		—	—	—

### 3 収支の状況

2023年度の経常収益は5,040,079円、経常費用は7,941,798円、当期経常増減額は▲2,901,710円、前期からの繰越分と合わせた次期繰越正味財産額は3,627,964円となった（詳細は活動計算書を参照）。塾・習い事型のビジネスモデルからコミュニティによる運営モデルに移行するなど事業モデルを根本的に見直し、移行準備期間は参加者募集を手控えていたこともあって大幅な赤字となったが、業務効率化による人件費の減少などにより予算比では赤字幅が縮小した。

### 4 今後の事業の方針

2023年10月より運営モデルを移行したことを受けて、2024年は「全員が学習者」というコンセプトをさらに体現する場づくりや組織づくりをさらに進め、モデル変更後の学びの場やコミュニティの魅力を認知してもらおう活動にも力を入れる。また、2024年1月からは、従来の職員中心で運営する形態から、参加者の誰もが運営に貢献しやすい、よりボランティア組織に近い運営形態となった。これに伴って人件費が前年度から大幅に減少するため、2024年度からは収支もバランスさせ、長期的に継続可能な体制を整えていく予定である。